

海と山に抱かれた本庄

まちあるきマップ

「本庄まちあるき」の特徴

本庄というところは島根半島の中ほどにあり、松江市の東部に位置している。眼前は広大な中海が広がり、背後には枕木、三坂の山々が連なる北山が迫り、西に高山の麓があり、海から山へと開ける豊かな自然に恵まれた土地である。しかし、人々が生活している場所は山や小高い丘などが点在しているため地域間の距離が離れている。その上海岸線の集落でも東方の手角地区から西

方の上宇部尾地区までは8°近くもあるなど、ウォーキングやサイクリングを行う場合、体力や時間が必要になることは覚悟しなければならない。この「本庄まちあるき」は、そういったハンディはあるものの、山や海の自然を満喫しながら身体を鍛えとるに、いろいろな文化や歴史・伝統を知るのには絶好のコースといえよう。

展望のすばらしさ 枕木山と華蔵寺コース

本庄の北側には北山山系が連なっているが、その中に3本のテレビ塔などが立ち、ひときり立っているのが枕木山(453m)である。この枕木山に登り、頂上にある華蔵寺にお参りするのが「本庄まちあるき」一番のおすすめコースだ。

龍湖山華蔵寺は慶長年間、堀尾吉晴が松江に築城する際、城の鬼門に当たるところから当寺を祈願所とし諸堂を造営復興した。また松平直政公をはじめ歴代藩主の庇護を受け再興、その名が知られるようになった。山門は現存建造物では最古と言われる。薬師堂に安置される本尊は「薬師如来」(平安後期作)で、国の重文指定になっている。

枕木山には昔から華蔵寺に参拝する人たちが始め、家族連れの登山客や北山縦走のハイカーたちが頂上を目指した。また、毎年5月8日には旧暦の花祭りが行われ、この日を「枕木山祭り」として近隣近から大勢の参拝者が詰め掛けている。

寺周辺の見所も多いが、なんといってもここからの展望は抜群だ。テレビ塔付近からの眺めもいいが、山頂にある展望台は最高。中海が東西に広がり、中央に大山を抱く姿はまさに絵に描いたように雄大。このスケールの大きい風景に感嘆の声をあげる人も多い。

本庄小学校では毎年5月に全校で「枕木山遠足」を行い、子どもたちのリーダー育成や長い坂道を歩き石段を登る厳しさは足腰の訓練に役立っている。同中学校でもマラソン登山とかゴミ拾いとかの行事で枕木山を身近な学習活動に組み入れている。みなさんも家族全員で「枕木山・華蔵寺コース」に挑戦してみよう。



華蔵寺全景



枕木山頂上から大山・中海を望む

身近な「中海」沿岸コース



中海が一望できる海岸道路

水辺の楽校

海岸道路

中海は本庄にとって、昔からとても身近な存在である。東西に長い海岸線があるので、本庄はどこ地域からでも中海がよく見えて親しみがある。また、豊富にとれる魚介類は人々の食卓を飾ってきた。その中海は、今から40年前(昭和38年)に国家事業として干拓が計画されたが、本庄工区だけはいろいろな事情によって中止(平成12年)となってしまった。そのため中海を縮め切った堤防や海底は工事のため大きく環境を変えてしまったが、海面はどうか残ることは残った。自然を元の姿に戻すことは大変ではあるが、地域住民などの努力によって水質もだんだんと改善され、魚介類の生息も回復傾向にあるとの声も聞く。

本庄が漁村だったころの船小屋はすっかり姿を消し、海岸線は近代的に整備された。それに変わって本庄小学校の横から新庄地区までの1420mは護岸道路(防災道路)として新しく造られた。その途中、3カ所の船だまり(港)があり、漁船や遊漁船などの小型船が出入りしている。この1°ちよっとの異

防道路を、新しい「本庄のまちあるき」コースとして紹介しよう。護岸道路の一段高い堤防道路には、広いジョギングコースが誕生した。このコースは堤防道路の距離と同じで、朝夕に健康づくりに汗を流すジョギングやウォーキングをする人々や、ゆっくり散歩をする姿もたくさん見かけるようになった。また、この堤防周辺は魚釣り場としても知られ、休日などには家族連れをはじめ釣り人たちが訪れる。

本庄小・中学校はいずれも堤防道路の延長線上に建てられて、まさに環境抜群といったところ。校舎東側の中海に面した部分に遊歩道などの施設があり、一帯を「水辺の楽校」と名づけている。裸足で中海に入ると魚介類がいて、それを観察したりして海に親しみが持てるように工夫されている。他地区には見られないユニークなコーナーになっている。また、水のきれいな砂浜では、親子でつくったカヌーを楽しんだり、夕日を背景にした音楽会を聞くなどして、本庄の人たちが中海に親しみをもちながらこの施設を利用している。

ACCESS アクセスガイド

◇到着地点は本庄公民館◇

- ◆JR松江駅より10.1km
車で約20分
路線バスで約30分(一畑バス新庄入口(バス停下車))
- ◆米子空港より15.4km
車で約30分
米子空港からJR松江駅までは直行の連絡バスがあります。



編集:本庄地区わかまち自慢発掘プロジェクト実行委員会
発行:松江市本庄公民館

〒690-1101 松江市本庄町463-3 TEL (0852) 34-0504

2012年(平成24年)9月20日発行

◆問い合わせは、本庄公民館まで

歴史と伝統の霊山 枕木山華蔵寺コース

- 地蔵堂 7分
- 仁王門 15分
- 不動大石像 30分
- 杉井の霊水 25分
- 山門 35分
- 本堂、薬師堂 15分
- 展望台 15分

仁王門
地蔵堂を越すと石段の参道が始まる。それを登ると仁王門にたどり着く。これは松平直政公の建立で、向側の仁王像は運慶の作といわれ、高さ2mを越す。5月8日には2歳児の無事成長を祈って「仁王さんのまたくくり」が行われる。

山門
いよいよ目的地である山頂の華蔵寺にたどり着く。この寺は臨済宗南無寺派の中興山で、今から1200年余りに創建されたといふ歴史ある神奈の別荘。樹齢数百年の大杉が建ち並ぶ広場の先に山門がある。この山門は華蔵寺山門といわれて屋上には梵鐘がかかっている。

不動大石像
仁王門を少し行った所の崖の上に、石で作った不動明王が鎮座している。大きさは国内有数のもの。苔むした巨石、独特の存在感を見せていて、何度見ても驚かされる。枕木山が松江城の鬼門に当たることから安泰を祈願し、慶応年間建立された。

本堂、薬師堂
山門をくぐると本堂に届く。ここでは本尊の南無釈迦牟尼佛に手を合わせる。前基は天台宗だが後に神宗に改められた。隣に建つのは薬師堂で、薬師如来像を安置する。平安後期の作と伝えられ、国の重要文化財である。樹齢のため50年ごとにこの間桐葉が替わられる。

杉井の霊水
通天橋を渡るると岩壁よりの水が湧き出ている。ここで参拝者は水を汲み、これを「杉井の霊水」といふ。龍山上聖がご病気のとき、この水を飲んだところ、たちどころに治ったと言われている。

展望台
枕木山に登ったら展望台に行くことをすすめたい。展望台は東西にあるが、西の方が整備されていて見晴らしもよい。眼下に大根島を浮かべた中海と三ツ浜の海岸線があり、その背景に秀麗な大山が見える。ここから見る景観は雄大で山麓第一といわれている。

地蔵をめぐるとコース

<本庄の地蔵伝説>

- A 編みがさ地蔵 (山崎地区) 10分
- B 首なし地蔵 (木並地区) 30分
- C ぐち聞き地蔵 (新庄地区) 30分

A 編みがさ地蔵 (山崎地区)
昔、山崎のため池の築造に関わる人々が、湧き水や崩壊防止の工事に困り果て、近くの街道を朝一番に通る者を人柱にしようとした。翌朝、通り過ぎようとした編みがさ売りの男を捕まえ、彼を生きて埋めた。工事は無事完成したが、彼を埋めた男はその後お堂を建て、木彫の地蔵さんを作ったという。

弁慶伝説をめぐるとコース

- 長見神社 10分
- 弁慶の森 5分
- 弁慶の大石 25分
- 弁慶島 45分
- 成相定恒の墓 15分

長見神社(弁慶の森)
弁慶が生まれたという「弁慶の森」の近くにある長見神社には、弁慶が書いたといわれる「弁慶願文」が掲げられている。長文の書き物で、それには弁慶の母井吉のことがや弁慶の子どものエピソードなどが書かれている。弁慶願文は一般には公開していない。

弁慶島
弁慶があまりにも乱暴だったため、それに怒った母井吉は弁慶を流した。それが龍島、ゆゆの弁慶島である。ここで弁慶は、父助と名乗る天狗から兵法を学び、後に自力でこの島から出たといわれる。今は陸続きになっているが、島には通行禁止で渡れない。

弁慶の森
弁慶の森は、今なおうそうとした木立で覆われ、今にも弁慶が現れるような雰囲気には包まれている。入り口から少し登ると小さな広場があり、中央に弁慶の碑が建てられている。弁慶は紀州の生まれだが、縁あって長見の里に来て弁慶を生んだという。近くに産湯の井戸もある。

修行時代
再び長海の家に戻った弁慶だが、更なる修行を行うおうと枕木山華蔵寺、龍泉の遺水寺、平田の鶴洞寺などを渡り歩いた。枕木山には展望台下にある滝橋宮跡に、「弁慶の立石」として持ち運んだ高さ2m以上の巨石が残されている。

弁慶の大石
生まれたとき弁慶は母の胎内に13カ月いて、髪はすでに肩まで伸び、歯も生え揃っていた。小さい頃から体はともにも大きく力持ちで、5歳のときには高さ2mの大石を、軽々と持ち運んだ。その大石は弁慶の森の入り口付近の畑のなかに、今でも置かれている。

成相定恒の墓
新任という所に弁慶の伯父にあたる成相定恒という刀鍛冶がいると聞いて、さっそくそこへ刀つづきつもらした。その刀で試し切りをしたが刃こぼれもしなかった。弁慶はそんな刀鍛冶を生かしておけと切腹した。その後母の死をきっかけに感に立った。

B 首なし地蔵 (木並地区)

昔、九坂九門という庄屋があった。凶作の年に役人の重税を受け、減米を願った。しかしそれを拒められ、その場で打ち首になった。村人はそれを大いに悲しみ、畑田を見渡せる場所に堂を立て、地蔵菩薩を祀った。後に堂を壊して石の祠としたという。

C ぐち聞き地蔵 (新庄地区)

人々のもつ悩みや不安、それらくるぐちを聞いて上げようと、幸福寺が境内に平成19年に建てた。まだ新しい地蔵だが、手を耳に当て、やさしい表情で話を聞かせる。悪業や地元住民らは親しみをこめて手を合わせている。

社寺をめぐるとコース

- 象田寺 21分
- 長見神社 33分
- 清安寺 57分
- 大通寺 18分
- 川上神社 23分
- 幸福寺 13分
- 久良彌神社 28分
- 宝林寺 10分
- 多気神社 10分

象田寺(手角地区)
本尊は觀世音菩薩。臨済宗南無寺派新華蔵寺の末寺。永永元年、華蔵寺4世九峰禅師によって開山したと伝えられる。本堂の庭に、胸高四圍約3mのラカンマキが生えている。この樹としてはまれに巨大とされる。

川上神社(川部地区)
主祭神は大國主命。大國主命が日本海側の荒原の神々を鎮めようとして、山を越して川辺の石に腰をかけて休まれた。後年大洪水があり、濁流の中で赤々と輝くものを見た。それこそ大國主が腰を下ろされた石であった。その石を御神体とした。御神体のある神社本殿の階部分は敷道に覆われていて、うかがい見ることは出来ない。

長見神社(長海地区)
主祭神は尊々尊の命。例祭日は10月19日。大祭が終わると祭いで地区の人が勢揃いする。氏子も男児4人が寛政をかつぎ、猪田の面を覆った空回りと田楽舞の流しを思わせる「猪田式」と呼ばれる舞を演ずる。天気が高く舞臺へ天下られた時に、案内役を務めた猪田由米の舞が演じられる。

幸福寺(新庄地区)
本尊は大日如來。曹洞宗清安寺の末寺で、万治元年に開山した。戦前は幸福庵といっていたが、戦後に幸福寺と改められた。

清安寺(邑生地区)
本尊は「新道光神尼仏」。群衆集にある曹洞宗長崎寺の末寺。開山は天文4年に同寺第2世天脱清海。開基は当寺領主であった開岐明官僧である。いろいろと説はあるが、代々開岐氏の保護を受け隆盛となる。その後盛衰を繰り返したが、14世紀力白明和尚は安永5年に本堂を再建した。

宝林寺(上宇部尾地区)
本尊は薬師如来。奥谷町の曹洞宗利居寺の末寺。天文元年同寺の結堂によって創建された。

大通寺(本庄地区)

本尊は千手観音。約1200年前慈覺大師によって創建と伝わるが、くわしい由緒については不明。戦前までは真言宗大覚寺派であったが戦後独立して単立寺院となる。昭和26年に廃寺となった玉理寺(山崎地区)と合併。

多気神社(上宇部尾地区)

主祭神は武甕槌命。大國主命に因りて因りて神である。平地である境内には、タブの巨木(胸高径3.5m)をはじめ、カゴノキ、モッコク、ハイノキなど木が茂っている。12月5日、同神社の祇神祭には藩でつった大船を神木に奉じて、その年の厄事を祓う行事が行われる。